

## 平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	航空機整備3		授業コード	C070601
担当教員名	本多 恒雄・林田 和隆		科目ナンバリングコード	
配当学年	3	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	航空機整備3は航空機整備1a, 1b及び2で得られた知識を、実機や工具を使ってより確実に理解する授業です。特に航空機整備2はこの授業で実習する内容の座学部分に相当し、航空機整備2で使用したテキストが必要となります。そのため原則として航空機整備2を受講していることが履修条件です。			
受講心得	当授業は県央空港での集中講義となっています。			
教科書	航空機の基本技術(日本航空技術協会 編集)			
参考文献及び指定図書	航空機製造メーカー発行のAIRCRAFT MAINTENANCE MANUAL等			
関連科目	航空機整備1a, 1b, 2, 4			

授業の目的	航空機整備を実施するための基本技術を実地で習得します。
授業の概要	<p>この授業は県央空港で集中講義となります。実習服に着替えて大学から県央空港エクステンションキャンパスにバスで移動します。到着後全員で機体移動、始動用バッテリー充電、コンプレッサー充填、格納庫フロー清掃、トイレ清掃等の授業準備を行います。授業準備後、教室にて全員でブリーフィングを行い、班別に当日の授業内容を確認します。</p> <p>授業は大きく分けて下記の3つの柱から成り立っており、各班毎にローテーションを組み、全員が全ての授業を受講できるようにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. MAINTENANCE MANUAL翻訳及び基本作業</li> <li>2. パイパーPA28-140型航空機の基礎教育</li> <li>3. バロン95-B55型航空機の基礎教育</li> </ol>

<b>○授業計画</b>	
学修内容	3つの授業内容
第1週：全体教育	学修課題(予習・復習)
① 授業開始に当たって受講の心構え等 ② 全体スケジュール(シラバス)の説明と班分け ③ 格納庫内清掃、場内取扱い及び各種注意事項 ④ GSE及び工具等の保管場所と取扱説明	Toolを貸与実習内容を復習
第2週：第2週～第15週:班別教育	学修課題(予習・復習)
全体スケジュールに基づいて班別に上記3つの授業を実施します。	Toolを貸与実習内容を復習

<p><b>3つの授業内容</b></p> <p>1. MAINTENANCE MANUAL 翻訳及び基本作業 航空機製造メーカーが発行した AIRCRAFT MAINTENANCE MANUAL 等を翻訳しマニュアルの見方や読み方を学習します。また航空機整備で使用する計測器や工具の名称、種類、用途、使用方法等を学習し、実習を通して基本作業のノウハウを習得します。</p> <p>2. パイパーPA28-140型航空機の基礎教育実機を使用して、当該航空機のシステム構成、各部の名称、各部の機能等を学習します。またマニュアルと実機を確認しながら、飛行前点検、飛行後点検、試運転方法等を学習します。</p> <p>3. バロン95-B55型航空機の基礎教育実機を使用して、当該航空機のシステム構成、各部の名称、各部の機能等を学習します。またマニュアルと実機を確認しながら、飛行前点検、飛行後点検、試運転方法等を学習します</p> <p>1. MAINTENANCE MANUAL 翻訳及び基本作業 航空機製造メーカーが発行した AIRCRAFT MAINTENANCE MANUAL 等を翻訳しマニュアルの見方や読み方を学習します。また航空機整備で使用する計測器や工具の名称、種類、用途、使用方法等を学習し、実習を通して基本作業の</p> <p>2. パイパーPA28-140型航空機の基礎教育 実機を使用して、当該航空機のシステム構成、各部の名称、各部の機能等を学習します。またマニュアルと実機を確認しながら、飛行前点検、飛行後点検、試運転方法等を学習します。</p> <p>3. バロン95-B55型航空機の基礎教育 実機を使用して、当該航空機のシステム構成、各部の名称、各部の機能等を学習します。またマニュアルと実機を確認しながら、飛行前点検、飛行後点検、試運転方法等を学習します。</p>		<p>英文MANUALについて予習・復習</p>
<p><b>第16週：期末試験</b></p> <p>口頭試問と機体サービシング これまで学習した内容について各自の理解度を確認するため口頭試問を実施し、不足部については再度解説して、より理解を深めます。またマニュアルに従って、機体のサービシング(清掃・点検・給脂)を実施します。</p>		
<p><b>授業の運営方法</b></p>	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「複数クラス方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	
<p><b>地域志向科目</b></p>	該当しない	
<p><b>備考</b></p>		

<p><b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b></p>	
<p><b>【関心・意欲・態度】</b></p>	<p>社会人として必要な資質を身につける</p>
<p><b>【知識・理解】</b></p>	
<p><b>【技能・表現・コミュニケーション】</b></p>	<p>航空機整備を実施する上で必要な基本技術の習得</p>
<p><b>【思考・判断・創造】</b></p>	

<p><b>○成績評価基準(合計100点)</b></p>			<p>合計欄</p>	<p>0点</p>
<p>到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点</p>	<p>期末試験・中間確認等(テスト)</p>	<p>レポート・作品等(提出物)</p>	<p>発表・その他(無形成果)</p>	

<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			<b>40点</b>
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。			
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			<b>60点</b>
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。			

**(「人間力」について)**

※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。

**○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安**

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	